

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	北海道大学
整理番号	A01
構想名	Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ ～世界に開かれ世界と協働～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本構想は、北海道大学の伝統・特色・強みを踏まえて、ガバナンス強化プランを軸に4つの教育改革プランと4つのシステム改革プランを推進する「1-4-4改革プラン」により、世界の課題解決に貢献する人材を育成し、国際通用性の向上と国際競争力の強化を目的とするものである。</p> <p>全体として、改革プランのそれぞれが当初の計画に沿って着実に実行されている。特に、グローバル人材育成に向けた教育改革として、学部生対象の新渡戸カレッジに加え、大学院生対象の新渡戸スクールというグローバル社会で活躍するためのスキルとマインドを習得させる教育プログラムを設置し、海外研究者との協働による海外ラーニング・サテライトや世界の第一線で活躍する研究者を国内外から招へいし授業を提供するHokkaidoサマー・インスティテュート積極的に展開している点は、独自性のある意欲的な取組として評価出来る。</p> <p>また、ガバナンス強化に向けて、本構想の企画・調整・進捗管理等を担う「HUCI（Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ）統括室」と各種データの収集・分析を行う「総合IR室」を設置し、全学一体となって改革を推進する体制を整備するとともに、「次世代大学力強化推進会議」における産学官の有識者による助言や国際大学協会による「国際戦略に対する助言サービス」の活用、経営協議会や総長室等への外国人登用等を積極的に進めていることも評価に値する。</p> <p>しかしながら、Hokkaidoサマー・インスティテュートには目標値の1,250名を超える学生が参加し、海外ラーニング・サテライトでも150名以上の学生が単位を取得しているにも関わらず、新渡戸カレッジ、新渡戸スクールの修了者数は少数に留まっており、これらの取組を質的・量的に充実させることが必要である。また、留学生の受入れは順調である一方、日本人学生の海外留学経験者数や大学間協定に基づく派遣日本人学生数、外国での教育研究歴のある日本人教員数は、数値目標に達していない。今後の改善策を検討し、教育研究環境の国際化や人材育成力の強化を図っていくことが望まれる。</p> <p>総長直轄の教育研究組織として開設した国際連携研究教育局（GI-CoRE）において、独自の強みを持つ6領域での国際共同研究を推進し、一定の成果を挙げるなど、国際競争力と研究力を強化するための体制整備は着実に進められている。今後、それらを基盤とする「国際大学院」が全学の大学院教育の高度化・国際化を先導することを期待する。</p>	